



吉野っ子の力 (国語・算数の力, 学習と生活の様子)

—令和6年度 全国学力・学習状況調査結果より—



【2024年4月 6年生実施】

今年度も昨年度と同様に、国語・算数の学力調査および学習や生活に関する質問調査が4月に行われました。国語・算数とも全国や福井県の平均に比べるとよい結果となりました。児童が学習に主体的に取り組んでおり、学校での授業づくりやご家庭での学習支援の効果が結果につながっています。

国語

<◎→特に良いところ ▲→伸ばしたいところ>

①『学習指導要領の内容「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」における結果から』

◎「書くこと」、「読むこと」の領域で、全国・県の正答率と比較すると、よい結果となりました。また、選択式の問題よりも記述式の問題において、全国・県と比べるとよくできていました。

②『特に正答率が高かった問題』

◎「読むこと」の領域では、物語文を読み、登場人物の相互関係や心情などについて、叙述に即して描写をもとに捉える問題がよくできていました。文章全体を読み、登場人物や場面、心情などを自分が読み取ったことについてグループや学級で話し合う活動を授業の中に取り入れる取り組みが成果をあげています。

◎「書くこと」領域において、「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるか」を問う問題が、全国・県に比べてよくできていました。事実と感想を分けて書くことができるように文章構成を考える活動を重視したこと、継続的に文章を書く機会を確保したことが結果につながっています。

③『課題として』

▲「言葉の特徴や使い方に関する事項」の内容において、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題について、全国・県に比べると誤りが多く見られました。

→新出漢字については、筆順や「へん」・「つくり」に着目できるような指導を心がけます。また、国語だけでなく他教科でも既習の漢字を使いながら文章が書くことができるよう児童に声をかけたり、学習アプリを活用して、自分の力にあった漢字学習をすすめたりして、既習の漢字を繰り返し活用することで定着につなげます。

算数

①『学習指導要領の4領域（「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」）における結果から』

◎「数と計算」、「変化と関係」「データの活用」の3つの領域で、全国・国と比べるとよい結果となりました。

②『特に正答率が高かった問題』

◎「数と計算」領域において、「問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる」問題で、問題文を読み、題意を捉えることができていました。低学年からの継続的な指導が効果をあげています。文章の中のキーワードからどんな式になるのかを話し合う学習活動をこれからも続けていきます。

◎「データの活用」領域において、「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる」問題や「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」問題などがよくできており、様々なグラフについて理解を深めている様子がうかがえます。算数科でデータの分類や整理についてしっかり学び、他教科などで活用することで、さらなる定着を図るようカリキュラムの工夫を進めます。

③『課題として』

▲「図形」領域で、「直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる」問題や「角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」問題において、課題があるといえます。

→三角形や四角形などの平面図形についてはよく分かる児童も立体図形になると苦手になる場合があります。平面図形の場合は形を認識しやすいといえます。立体図形になると実物があればよく理解できるのですが、展開図や見取図になると児童にとって認識が難しく感じるようです。授業では、まず立体模型などの実物によく触れることで、形としての認識を深め、さらに、アプリやデジタル教科書などを活用し3Dモデルを取り入れることで、児童の図形への興味を高める指導の工夫を行います。

《家庭や生活に関すること》

- ◎ほとんどの児童が、毎日朝食を食べています。
- ◎同じくらいの時刻に寝起きしている児童の割合が高く、自ら規則正しい生活をしようと心がけています。
- ◆全国、県に比べると家庭で自主的に学習に取り組む時間が短いです。
 - 児童が自らの学習状況に合わせて自主的に学習に取り組めるように、宿題の出し方を工夫するだけでなく、ドリル型アプリなど活用するようにします。
- ◆スマートフォンやタブレットなどでSNSや動画を見る時間がおおむね平日で1時間程度になっていますが、長時間になっている児童もいます。
 - 学校でも適正な時間や使い方になるように児童にも伝えます。ご家庭でもお子さんとともに利用のルールづくりにご協力ください。

《学校生活や授業に関すること》

- ◎「自分で課題をもって学習に取り組んでいる」や「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりする」などの学習についての設問において、「当てはまる」と解答した児童が全国・県よりも高く、学習活動の中で、主体的に学習に取り組み、児童同士が考えの違いを認め合いながら学び合う児童が多いといえます。
- ◎「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたい」など、他者と共により良く生活していくために大切なことをしっかり意識できています。
- ◎学習活動の中でタブレットの利活用を進めた結果、タブレットなどの ICT 機器が学習に有効であると感じている児童の割合が高くなりました。
- ◎国語や算数の学習が大切であると考えている児童の割合が高く、授業の内容をしっかりと理解している児童の割合も高いです。
- ◎国語や算数で学んだことが将来社会に出たときに役に立つと感じている児童が多いです。
- ◆国語や算数が大切であり、将来役立つと感じている児童が多いにもかかわらず、「好き」と答える児童の割合が全国・県の平均に比べると低くなっています。
 - 授業改善をさらに進め、学ぶことが楽しいと思えるような学習活動を取り入れます。また、学習の振り返り活動を重視し、児童自らが成長を感じられることで学ぶことが好きになる児童を増やしていきます。

《自分自身に関すること》

- ◎将来の夢や目標を持っていると答えた児童の割合が高いです。
- ◎普段の生活で、幸せを感じている児童の割合が高いです。
- ◎「自分には、よいところがありますか。」については昨年度に比べるとよい結果となりました。今までの取り組みを継続し、児童が自分のよさに気付けるように学習だけでなく学校生活においても配慮していきます。
- ◎地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思っている児童が多かったです。

【児童のみなさんへ～自分たちの学ぶ力をさらに高めるために～】—学力調査の結果から—

- ①質問調査の結果から、スマートフォンなどで動画やSNSを見る時間が少ない児童ほど国語や算数の結果がよいことが分かりました。ルールをしっかりと決めて動画やSNSを視聴しましょう。
- ②授業の中で、分からないことや疑問に思ったことを自分で調べたり人に聞いたりして解決すると、学力が向上することが今回の調査で明らかとなりました。自分で進んで学習に取り組むようにしましょう。
- ④国語の学習だけでなく、他の教科の学習でも進んで習った漢字を使うようにしましょう。また、学習アプリを使って、習った漢字の中で、自分が苦手だなと思うものについて繰り返し練習できるといいですね。
- ⑤算数の学習では、様々な図形に興味をもつようにしましょう。